



取扱説明書

WITHCALL PRO[®]

作業連絡用無線設備 子機

IC-5880

この取扱説明書は、別売品のことも記載していますので、お読みになったあとも大切に保管してください。

Icom Inc.



はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた作業連絡用無線設備の子機です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

※本製品は、親機(IC-MS4880)と併せてご使用いただくことで、通話できるシステムです。

本製品の概要について

- ◎IP67(耐塵形と防浸形)^{*}の性能に対応できるように設計されています。(バッテリーカバー装着時に限る)
- ◎本製品は、親機と併せてご使用いただくことで、電話のような同時通話(複信方式)ができます。
- ◎基本的な同時通話は、本製品(子機：最大4台)間通話＋親機(1台)の最大5台です。
- ◎親機の有線拡張機能を使用するシステムでは、子機：最大8台＋親機：1台(2台連結)の最大9台で同時通話ができます。
- ◎秘話を設定することで、他局に通話内容を盗聴されるのを防止できます。
- ◎オートパワーオフ機能により、電源の切り忘れによる電池の消費を防止できます。
- ◎プログラムキー割り当て機能により、用途に合わせた機能の割り当てができます。
- ◎本製品は、免許不要・資格不要です。

★「IP表記について」(P.iii)をご覧ください。

取扱説明書の内容について

本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。

一般的なご使用を想定した内容にしていますので、ご使用になる機能や操作について詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

表記について

本書では、IC-5880(本製品)を子機、IC-MS4880を親機と表記します。

登録商標/著作権

アイコム、ICOM、ICOMロゴ、WITHCALL PROロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

本書の内容の一部、または全部を無断で複製/転用することは、禁止されています。

電波法上のご注意

- ◎本製品は、電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
分解や改造をしないでください。
- ◎本製品は、アンテナを含めて技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
そのため、ご使用いただけるアンテナは、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けたものに限定されます。
アンテナを加工して使用したり、弊社指定以外のアンテナを使用したりすると、電波法違反で罰せられる場合がありますので、ご注意ください。
- ◎他局の通信を妨害することや、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎使用できるのは、日本国内に限られています。

使用後はリサイクルへ



この製品は、充電式電池使用機器です。希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、端子部分をテープで絶縁し、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

充電式電池リサイクル協力店については、一般社団法人 JBRC のホームページでご確認ください。

JBRC ホームページ <https://www.jbrc.com/>

はじめに

防塵/防水性能

バッテリーカバーを本製品に正しく取り付けた状態で、IP67の防塵/防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を保証できませんので、ご注意ください。

- 水深1m以上、または30分以上水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手でバッテリーカバーを付けたり、はずしたりしたとき
- 海水や砂、泥、洗浄液(洗剤)等が無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- 蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- 別売品を使用したとき
- 無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷があるとき
- -10°C ~ $+50^{\circ}\text{C}$ 以外の環境で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置したとき
- 本製品を分解、または改造したとき
- 無線機本体とバッテリーパック、アンテナ、別売品を接続するコネクタ間に微細なゴミ(糸くず、毛髪、砂など)が挟まっているとき

別売品の使用による防塵/防水性能

別売品を使用したときは、別売品を含めた防塵/防水性能の低いものに制限されます。

別売品(6章)は、防塵/防水性能をご確認の上、ご使用ください。

海水が付着したときは？

海水が無線機に付着したときは、すぐに洗い流し、水分をふき取って十分に乾燥させてからご使用ください。

海水が付着したまま放置したり、使用したりすると、故障の原因になります。

※バッテリーカバーを無線機に正しく取り付けた状態で洗浄してください。

※常温の真水でやさしく洗い流してください。

※ブラシなどを使用せず、手で洗い流してください。

ご注意

次の場合は防水性能を維持できませんので、弊社サポートセンターにご相談ください。

- 無線機本体が破損している場合
- 落下などの強い衝撃を無線機に与えた場合

取り扱い上のご注意

◎アンテナを持って本製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。

◎本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。

結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。

◎雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手のままでバッテリーカバーを付けたり、はずしたりしないでください。

◎蛇口からの水や湯を直接当てないでください。

◎無線機本体やバッテリーパックと充電器の各端子(充電端子、および電源ジャック)、アルカリ電池ケースの電池端子にゴミやホコリが付着すると、正常に使用できないことがありますので、各端子を定期的にご確認ください。

◎磁気カードを無線機に近づけないでください。

磁気カードの内容が消去されることがあります。

◎バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上使用しなかったときは、必ず充電してください。

◎本製品の故障、誤動作、不具合などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

はじめに

IP表記について

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級の表記に該当する数字の部分を「X」で表記します。

【本書で記載する保護の程度について】

IP5X(防塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機として動作すること

IP6X(耐塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機の内部に粉塵の侵入がないこと

IPX4(防まつ形) : いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと

IPX7(防浸形) : 水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として動作すること

電磁ノイズについて

以下に示すようなインバーター回路内蔵の電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

【インバーター回路内蔵のおもな電子機器】

- ◎LED照明器具 ◎電磁調理器 ◎給湯器
- ◎自動車に搭載された電子機器 ◎太陽光発電装置

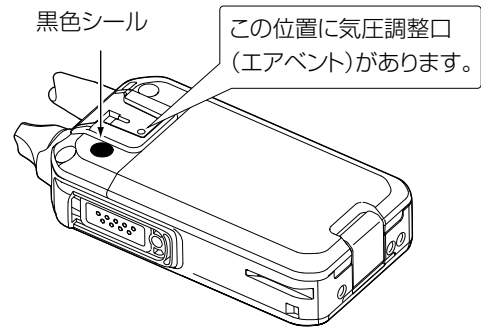
気圧調整口(エアベント)について

下図の位置に気圧調整口(エアベント)があり、この下にある空気を通す素材のシートによって、気圧を調整しています。

※ほかのシールを貼るなどしてふさぐと、気圧調整ができなくなり、運用してしばらくすると、ブープ音用の出力穴からの音が小さくなる現象が発生することがあります。

また、防水性能が維持できなくなる場合があります。

※黒色シールに傷がつくと、防水性能が維持できなくなる場合があります。



もくじ

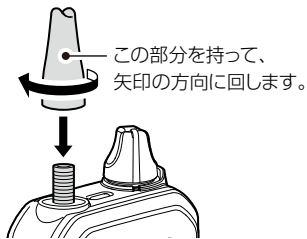
はじめに	i	6.別売品とその使いかた	6-1
■ 本製品の概要について	i	■ 別売品についてのご注意	6-1
■ 取扱説明書の内容について	i	■ ホームページに掲載	6-1
■ 表記について	i	■ 別売品一覧表	6-1
■ 登録商標/著作権	i	■ 安全な充電のために	6-2
■ 電波法上のご注意	i	■ バッテリーパックの運用時間と充電時間	6-2
■ 防塵/防水性能	ii	■ バッテリーパックの特性と寿命について	6-2
■ 別売品の使用による防塵/防水性能	ii	■ バッテリーパックの膨らみについて	6-2
■ 海水が付着したときは？	ii	■ 正しい充電のために	6-2
■ 取り扱い上のご注意	ii	■ 充電のしかた	6-3
■ IP表記について	iii	■ 連結充電について	6-3
■ 電磁ノイズについて	iii	■ BC-256の定格について(別売品)	6-3
■ 気圧調整口(エアイベント)について	iii	■ BP-308(アルカリ電池ケース)	6-4
1.ご使用前の準備	1-1	■ 運用時間(アルカリ電池ケース使用時)	6-4
■ 付属品の取り付けかた	1-1	■ アルカリ電池ケースを正しくご使用 いただくために	6-4
■ ベルトクリップの取り付けかた(別売品)	1-1	■ FA-S29U(防水形短縮アンテナ)	6-4
■ マイクロホンとイヤホンの取り付けかた	1-1	■ HM-123(本体取り付け型マイクロホン)	6-4
2.各部の名称と機能	2-1	■ OPC-636(マイクスイッチ内蔵型 接続ケーブル)/OPC-661(接続ケーブル)	6-5
■ 前面部	2-1	■ HS-92(ヘルメット取り付け型マイクロホン)と EH-11(イヤークリップ型スピーカー)の組み立て	6-5
■ 表示部	2-2	■ VS-2SJ(VOXユニット)	6-5
■ 電池の残量表示について	2-2	7.保守について	7-1
■ 電池の残量警告音について	2-2	■ メモリーチャンネル表示一覧表	7-1
3.通話のしかた	3-1	■ 日常の保守と点検について	7-2
■ 通話するときのアドバイス	3-3	■ 防塵/防水性能維持の定期点検と保守について	7-2
4.そのほかの機能について	4-1	■ 従来製品との相互使用について	7-2
■ 秘話機能	4-1	■ 故障かな?と思ったら	7-2
■ ロック機能	4-1	■ アフターサービスについて	7-3
■ オートロック機能	4-1		
■ オートパワーオフ機能	4-1		
■ バックライトの設定	4-1		
■ ビープ音の設定	4-1		
■ [P1]/[P2]の機能割り当て	4-2		
5.設定モード	5-1		
■ 設定項目一覧	5-1		
■ 設定モードで設定するには	5-2		
■ 設定項目について	5-3		

1

ご使用前の準備

■ 付属品の取り付けかた

【アンテナ】



【バッテリーパック:BP-304A】

ご購入後、はじめて、ご使用になるときは、必ずバッテリーパックを充電してください。

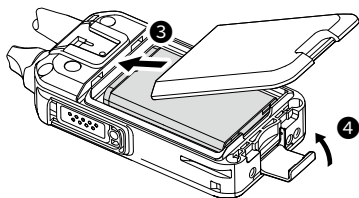
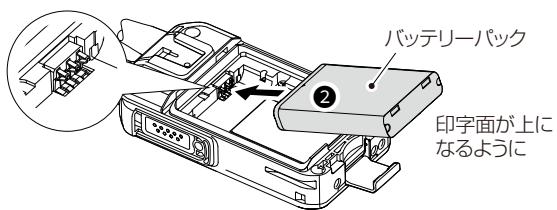
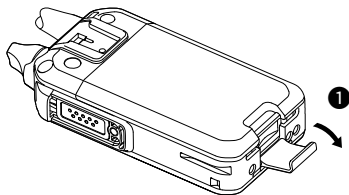
※充電器は、付属していません。

充電器(BC-256)と充電器の電源(BC-228、またはBC-123S)を別途ご購入ください。

※BC-256の電源には、BC-228またはBC-123Sを必ずご使用ください。

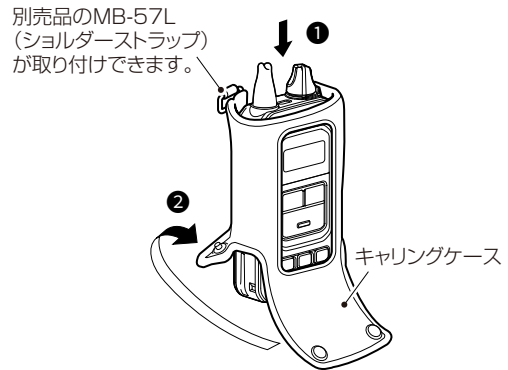
※充電方法は、「■ 充電のしかた」をご覧ください。(6章)

本体の電源を切った状態で、バッテリーパックを着脱してください。

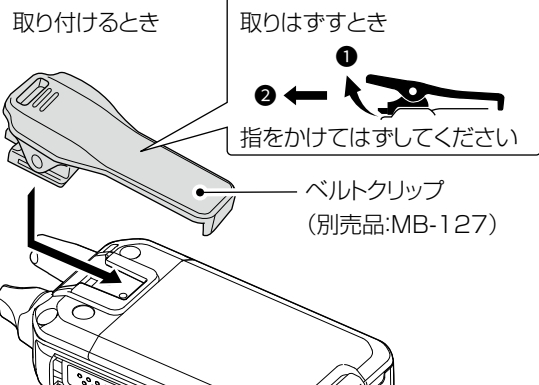


【キャリングケース:LC-196】

キャリングケースを本体に装着した状態で充電できます。
※BP-308(別売品:アルカリ電池ケース)にも使用できます。



■ ベルトクリップの取り付けかた(別売品)



■ マイクロホンとイヤホンの取り付けかた

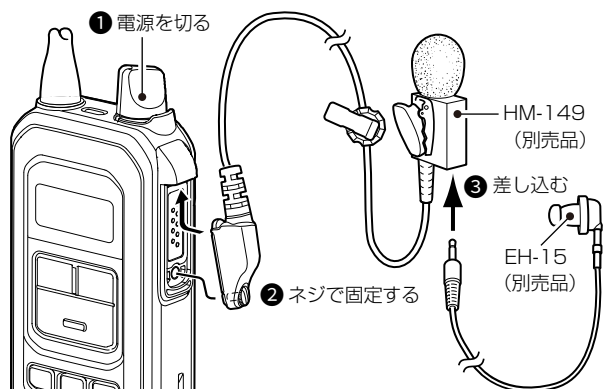
(別売品)

マイクロホンとイヤホンは、必ず取り付けてください。取り付けしていない場合、通話できませんのでご注意ください。

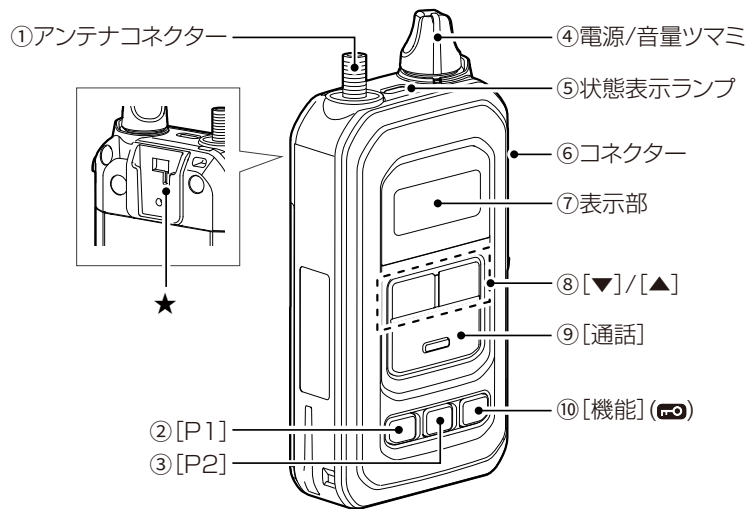
用途に応じて、弊社別売品(6章)から選択してください。

【接続の組み合わせ例:HM-149+EH-15】

電源[①]を切ってから、防水コネクター付きタイピン型マイクロホン[②]とイヤホン[③]を接続します。



■ 前面部



① アンテナコネクタ

付属のアンテナを接続するSMAコネクタです。

② [P1]

◎ 割り当てた機能が動作します。

※短押しと長押し操作を設定モードで割り当てできます。(P.4-2)

◎設定モード(P.5-2)のときは、短く押しごとに、設定項目を選択できます。

③ [P2]

割り当てた機能が動作します。

※短押しと長押し操作を設定モードで割り当てできます。(P.4-2)

④ 電源/音量ツマミ

◎電源を「入」/「切」します。

◎コネクタに接続されたイヤホンやスピーカーから聞こえるピーブ音と通話時の音量を調整します。(P.3-1)

⑤ 状態表示ランプ

通話の状態を示します。

なお、同時通話中は、送信時の状態を優先します。

- 赤色で点灯： 送信中
- 緑色で点灯： 受信中

⑥ コネクタ(P.1-1)

別売品のマイクロホンやイヤホンなどを接続します。

⑦ 表示部(P.2-2)

運用状態が表示されます。

⑧ [▼]/[▲]

◎メモリーチャンネル番号を選択するときに押します。

◎設定モード(P.5-2)のときは、表示されている設定項目の設定値を選択できます。

⑨ [通話]

◎押しごとに、「送信」と「受信」が切り替わります。

◎設定モード(P.5-2)のときは、押すと、設定内容が確定されます。

⑩ [機能] (🔒)

◎長く押しごとに、ロック機能が「ON」/「OFF」します。(P.4-1)

◎設定モード(P.5-2)のときは、短く押しごとに、設定項目を選択できます。

★ピーブ音が出力されます。

相手の音声は、コネクタに接続されたイヤホンやスピーカーから出力されます。

△注意

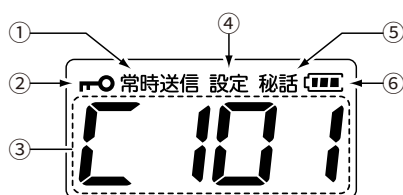
ピーブ音用の出力穴やエアベントの開口部に針金などを差し込まないでください。

開口部は、内部に貼られた防水シートにより無線機内外の気圧を調整する機能を兼ね備えています。

防水シートが破損すると、防浸性が失われる原因となることがあります。

2 各部の名称と機能

■ 表示部



① 常時送信

送信動作機能で「tbAL」に設定されているときに表示します。(P.5-5)

②

ロック機能が動作中に表示します。(P.4-1)

③ メモリーチャンネル表示

メモリーチャンネル(表示例:C101)を表示します。

※設定モード(P.5-1)では、設定項目と、その設定値を表示します。

④ 設定

設定モードで表示します。


⑤ 秘話

秘話機能(P.4-1)が設定されているときに表示します。





⑥

電池の残量を4段階で表示します。


■ 電池の残量表示について

表示は、バッテリーパック、またはアルカリ電池ケース(別売品)の電池残量に応じて変化します。

※残量が少なくなりましたら、バッテリーパックの場合は充電し、アルカリ電池ケースの場合は、新しいアルカリ乾電池と交換してください。


表示	電池の残量表示について
	十分に容量があります。
	充電、または電池を交換する時期です。 (短時間の運用は可能)
	充電、または電池の交換が必要です。
	ほとんど容量がなく、表示が点滅し、残量警告音が鳴ります。

■ 電池の残量警告音について

電池の残量表示が  になると、残量警告音が接続されたイヤホンと無線機本体から30秒ごとに繰り返し(2回)「ピーピーピー」と鳴ります。

残量警告音が鳴り出したら、すぐにバッテリーパックを充電してください。

アルカリ電池ケースの場合は、新しいアルカリ乾電池と交換してください。

※送信中に残量表示が  になった場合は、送信停止後に、残量警告音が鳴ります。

※使用しつづけると、「Lo」表示に切り替わり、残量警告音が「ピーピピピ・・・」と鳴り、5秒後に、無線機の電源が自動的に切れます。

3

通話のしかた

1 電源を入れる

電源/音量ツマミを時計方向に回します。

●「カチッ」と音がして、「ピー」と鳴ります。

※反対方向に回すと、電源が切れます。

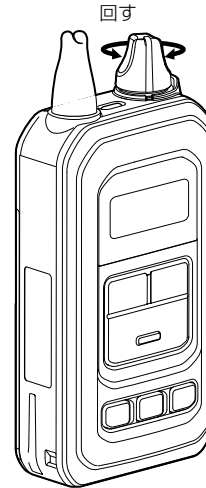
※表示部の照明は、電源を入れたときや各キーを操作したとき、約5秒点灯します。(P.4-1、P.5-4)

※送信動作機能が「常時送信」(P.5-5)に設定されている場合は、音声信号を含んでいない電波(無変調)が常に送信された状態(常時送信)になります。



2 音量を調整する

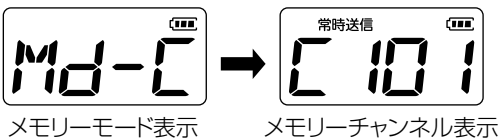
電源/音量ツマミを回して、相手の声が聞こえる音量に調整します。



【メモリーモード表示について】

チャンネルメモリーモード(初期設定)に設定された無線機の場合、電源を入れた直後に、Md-Cが表示(約1秒)されたあと、電源を切る直前のメモリーチャンネル(例：C101)が表示されます。

※メモリーモードの変更については、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。



△警告

下記の事項を守らないと、音量によっては、聴力障害の原因になります。

◎イヤホンなどは、大きな音量で使用しないでください。

◎コネクターの取り付けや取りはずしは、大きな異音が出ることがあります。

電源を切ってから、取り付けや取りはずしをしてください。

また、イヤホンなどは、耳からはずしてください。

◎本製品の音量は最小にしておき、イヤホンなどを耳に当ててから、聞きやすい音量に調整してください。

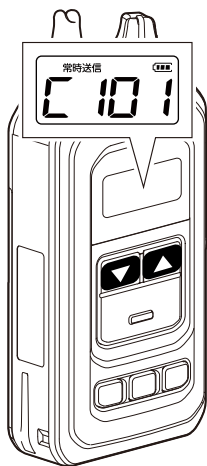
※何も音が出ていない状態(待ち受け中)での調整は、無線機を操作したときのピープ音が小さく聞こえはじめる程度にしておき、通話を開始してから聞きやすい音量に調整してください。

3 通話のしかた

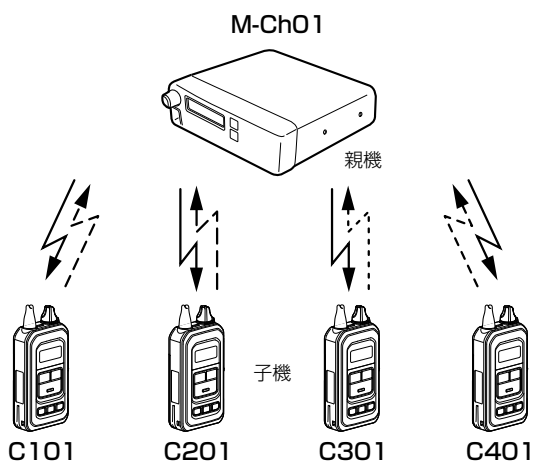
3 メモリーチャンネルを選択する

[▲]、または[▼]を繰り返し押し、あらかじめ登録されたメモリーチャンネル(例:C101~C401)から選択します。

※送信動作機能が「常時送信」(P.5-5)に設定されている場合は、本製品のチャンネルを設定すると、親機は、音声信号のない電波を受信します。



※下記の図は、最大5台で同時通話する場合の構成です。



4 呼び出しをする

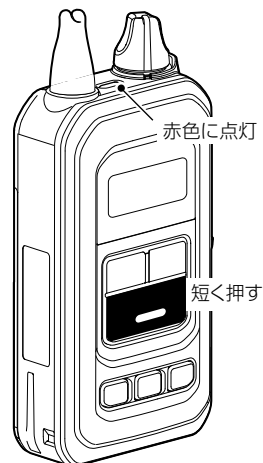
① [通話]、または接続したマイクロホンのマイクスイッチを押します。

●「ピピッ」と鳴って、状態表示ランプが赤色に点灯します。

※使用するスイッチは、「接続ケーブルの選択」で設定します。(P.5-3)

② マイクに向かって、『こちらは××です。○○さんどうぞ。』と相手(親機、または子機)に呼びかけます。相手が応答したら、電話と同様に同時通話できます。

※送信動作機能が「常時送信」(P.5-5)に設定されている場合でも、[通話]、または接続したマイクロホンのマイクスイッチを押すまで、状態表示ランプは赤色に点灯しません。

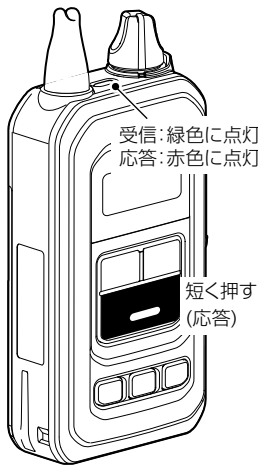


3 通話のしかた

5 呼び出しを受ける

- ① 接続したイヤホンやスピーカーから相手の声が聞こえてきたときは、**【通話】**、または接続したマイクロホンのマイクスイッチを押します。
 - 「ピピッ」と鳴って、状態表示ランプが赤色に点灯します。
- ② マイクに向かって、『こちらは〇〇局です。××さんどうぞ。』と相手(親機、または子機)に応答すると、電話と同様に同時通話できます。

※状態表示ランプは、トーン周波数が不一致の信号を受信しても緑色に点灯します。
また、同時通話中は、赤色に点灯します。



■ 通話するときのアドバイス

マイクの使いかた

マイクに向かって話すときは、マイクと口元を約5cmはなし、普通に会話する大きさの声で通話してください。マイクを口元に近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、めいりょう度が悪くなることがありますのでご注意ください。

通話する場所について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物など)により、通話しにくくなる場合があります。

そのときは、場所を少し移動して通話してください。また、テレビやラジオなどの電化製品や、パソコンおよび電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

電波干渉について

比較的せまいエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。

このような混信は、各メモリーチャンネルに登録された周波数の組み合わせを適切に変更することで防止できます。

詳しくは、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

常時送信について

送信動作機能が「tbAL」(P.5-5)に設定されている場合は、音声信号を含んでいない電波(無変調)が常に送信された状態(常時送信)になります。

音声信号は、**【通話】**、または接続したマイクロホンのマイクスイッチを操作するまで送信されず、状態表示ランプも赤色に点灯しません。

※親機側は、チャンネルメモリーモードで運用するとき「常時送信」になり、本製品がその信号を受信できる場合は、状態表示ランプが緑色に点灯します。

■ 秘話機能

秘話機能が設定されていない本製品を使用しているほかの相手に、通話内容が盗聴されるのを防止できます。

※設定モード(5章)から、下図の設定項目で秘話機能(表示例:Scon)と秘話コード(表示例:Cd14)を設定してください。

※秘話機能の設定と秘話コードは、通話するすべての無線機で同じ設定にしてください。



秘話機能 on



秘話コード 14


※機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめてできません。また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

■ ロック機能

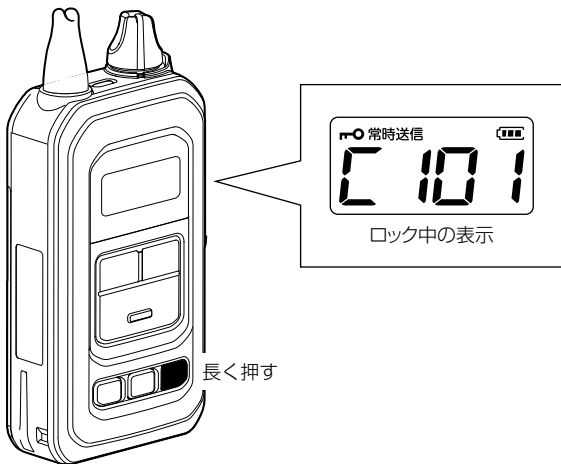
電源を入れなおしたり、不用意に無線機のキーに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

【機能】を「ピピッ」と鳴るまで長く押します。

●「」が表示されます。

※同じ操作をすると、解除できます。



【ロック中にできる操作】

- ロック機能の解除
- 【通話】(呼び出し/応答)の操作
- 音量の調整
- 電源の「入」/「切」

■ オートロック機能

操作をしない状態が30秒間経過すると、自動的にロック機能が動作する設定です。

※設定モード(5章)から設定できます。

設定すると、ロックされた状態で起動するようになります。

※解除方法は、ロック機能と同じです。

※設定時間を変更したい場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ オートパワーオフ機能

自動的に無線機の電源を切る設定です。

電源の切り忘れによる電池の消費を防止できます。

※オートパワーオフを設定すると、待ち受け状態で音量調整以外に何も操作しない状態がつづく、オフタイマーがスタートします。

※オフタイマーが動作中に、呼び出しを受けたり、途中で操作(音量調整を除く)したりすると、オフタイマーがその時点から再スタートします。

※時間になると、「ピピピピピ」と鳴って、電源が切れます。

※設定モードの状態では、動作しません。

※設定モード(5章)から設定できます。

■ バックライトの設定

【▼】/【▲】、【機能】、【P1】、【P2】のいずれかを押したとき、表示部の照明を自動点灯させる機能です。

※設定モード(5章)から設定できます。

※【通話】操作や音量調整のときは、自動点灯しません。

■ ビープ音の設定

【▼】/【▲】、【機能】、【P1】、【P2】、【通話】のいずれかを押したときのビープ音(操作音など)を鳴らすか、鳴らさないかの設定です。

※設定モード(5章)から設定できます。

4 そのほかの機能について

■ [P1]/[P2]の機能割り当て

[P1]/[P2]に機能を割り当てることで、設定モードに移行せずに設定値を変更できます。

※短押しと長押し操作に機能を割り当てできます。

※設定モード(5章)から設定できます。

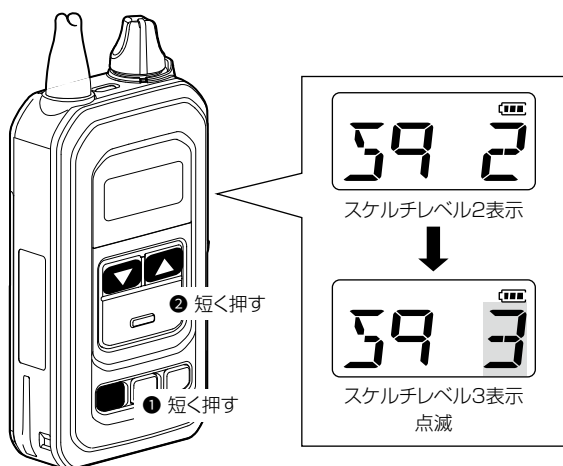
【操作のしかた】

例: [P1]短押し操作にスケルチレベルを割り当てた場合

① [P1]を短く押して、スケルチレベル表示に切り替えます。

② [▲]、または[▼]を押して、スケルチレベルを設定します。(例: Sq 3)

※[P1]、[機能]、[通話]のいずれかを短く押すと、通常画面に戻ります。



【操作のしかた】

例: [P1]長押し操作にモニター機能を割り当てた場合

[P1]を押しているあいだモニター機能が動作します。

● 動作中は、状態表示ランプが緑色に点灯します。



※モニター機能は、「ザー」という音を聞きながら音量を調整するときに使用します。

5

設定モード

■ 設定項目一覧

設定モードでは、以下の設定項目が変更できます。

※初期設定とは、工場出荷時の設定を意味します。

項目名称	設定項目	初期設定	選択肢	参照
マイク感度	Mc	3	1~5	P.5-3
接続ケーブルの選択	Cb	St	St、SW	
スケルチレベル	Sq	2	0~5	
通話通知	Nc	oF	oF、on	
秘話	Sc	oF	oF、on	
秘話コード* ¹	Cd	14	01~16	P.5-4
オートパワーオフ	At	oF	oF、1H、2H、4H、8H	
チャンネル非表示	dS	oF	oF、on	
バックライト	Lc	on	oF、on	
ビーブ音	bP	on	oF、on	
オートロック機能	AL	oF	oF、on	
モニター機能	Mo	oF	oF、on	
送信動作機能	tb	AL	AL、Pt	P.5-5
P1(短押し)	S1	oF	oF、on	
機能割り当て* ²	Sq	—	Sq、Mc	
P2(短押し)	S2	oF	oF、on	
機能割り当て* ²	Sq	—	Sq、Mc	
P1(長押し)	L1	oF	oF、on	
機能割り当て* ²	Sq	—	Sq、Mc、Mo	
P2(長押し)	L2	oF	oF、on	
機能割り当て* ²	Sq	—	Sq、Mc、Mo	

★1 「秘話」の設定が「ScoF」のときは、表示されません。

★2 P1(短押し)/P2(短押し)/P1(長押し)/P2(長押し)の設定が「oF」のときは、表示されません。

5 設定モード

■ 設定モードで設定するには

1 電源を切る

電源/音量ツマミを「カチッ」と音がするまで、反時計方向に回します。

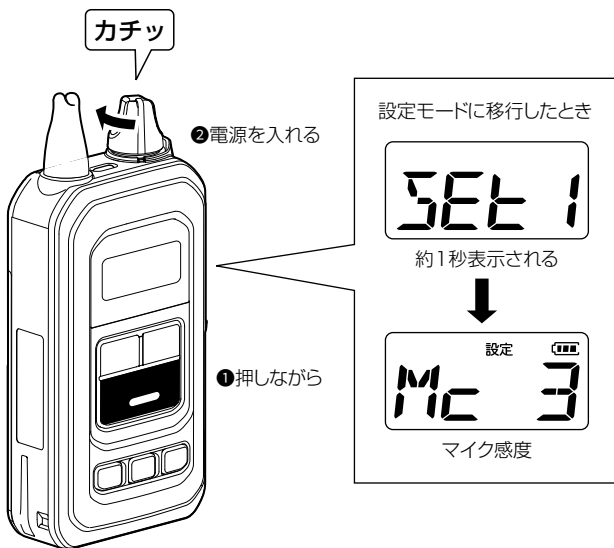


2 設定モードで起動させる

[通話]を押しながら、電源/音量ツマミを回します。

- 「ピピッ」と鳴り、「SEt1」を表示(約1秒)後、設定項目(表示例:Mc 3)が表示されます。

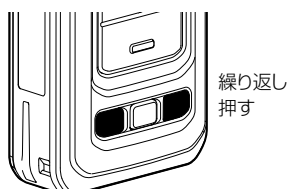
※「SEt1」が表示されなかったときは、手順1から操作をやりなおしてください。



3 設定項目を選択する

[機能]、または[P1]を繰り返し押して、設定項目を選択します。

※ [P1]を押すと逆方向に切り替わります。

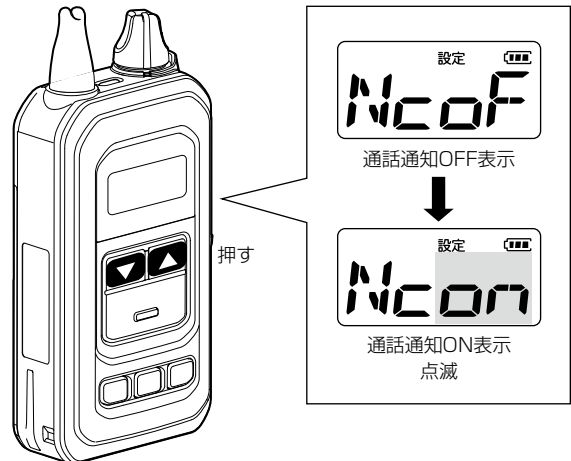


4 設定値を変更する

[▲]、または[▼]を押します。

- 変更すると、設定値が点滅します。

※手順3と4の操作を繰り返して、ほかの設定項目も設定します。(表示例:Ncon)

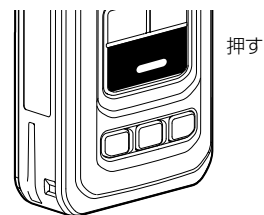


5 設定値を確定する

[通話]を押します。

- 「ピピッ」と鳴り、設定値が確定されます。

※ [機能]、または[P1]を押して、設定項目を切り替えることで、設定値を確定することもできます。



6 設定モードを解除する

設定モードを解除するときは、電源を切ります。

※ 設定モードを解除するまで通話できません。

電源を入れなおしてから通話を確認してください。

5 設定モード

■ 設定項目について

マイク感度 (初期設定: Mc 3)



接続されたマイクロホンの感度を設定します。

- 選択範囲: 1 (低)~5 (高)
- ※ 設定値を大きくすると比較的小さな声でも通信相手に聞こえやすくなりますが、周りの音も聞こえやすくなります。

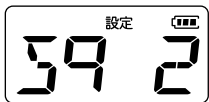
接続ケーブルの選択 (初期設定: CbSt)



無線機本体の【通話】とマイクロホンの接続ケーブル(別売品)に取り付けられたマイクスイッチのどちらの動作を有効にするか設定します。

- CbSt : 無線機本体の【通話】の動作を有効にする
※ OPC-661 (接続ケーブル) を接続するとき、選択します。
- CbSW : マイクロホンの接続ケーブルに取り付けられたマイクスイッチの動作を有効にする
※ OPC-636/OPC-2277 (マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル) を接続するとき、選択します。

スケルチレベル (初期設定: Sq 2)



受信する相手局の信号レベルの強弱に応じて、スケルチレベルを設定します。

- 選択範囲: 0 (オープン)、1 (浅い)~5 (深い)
- ※ 設定値が小さい(浅い)ときは弱い信号でも受信できますが、設定値が大きい(深い)ときは強い信号だけを受信します。

通話通知 (初期設定: NcoF)



本製品(子機)が同じシステム内で運用する親機の通信圏内にあるかどうかを通知する設定です。

- NcoF : 通知しない
- Ncon : ビープ音で通知する
- ※ 「Ncon」に設定すると、本製品と一致した信号を受信したとき、一度だけ「ピロピッ」と鳴ります。
また、通話圏外に移動した(受信信号が切れた)ときは、「ブッ」と鳴ります。

秘話 (初期設定: ScoF)



他局に通話内容を盗聴されるのを防止する設定です。

- ScoF : 使用しない
- Scon : 使用する
- ※ 秘話を設定すると、秘話を設定しない相手には、通話内容が正しく聞き取れません。
※ 「Scon」設定時、図のように、「秘話」が表示されます。



秘話コード (初期設定: Cd 14)



「秘話」の設定が「Scon」のときは、秘話機能で通話する相手の無線機と同じ秘話コードを設定します。

- 選択範囲: 01~16
- ※ 通話するすべての無線機で、同じ設定にしてください。
- ※ 「秘話」の設定が「Scon」に設定されているとき、表示される項目です。
- ※ 秘話コードは、工場出荷時の値から変更して使用することをおすすめします。
- ※ IC-MS4880、またはIC-4880と秘話機能を使用して通話するときは、秘話コードを「14」に設定してください。

5 設定モード

■ 設定項目について

オートパワーオフ (初期設定:AtoF)



待ち受け状態で音量調整以外に何も操作しない状態がつづくとき、オフタイマーが開始し、自動的に無線機の電源が切れる時間の設定です。

- AtoF : 使用しない
- At1H : 1時間後に切る
- At2H : 2時間後に切る
- At4H : 4時間後に切る
- At8H : 8時間後に切る

※オフタイマーが動作中に、呼び出しを受けたり、途中で操作(音量調整を除く)したりすると、オフタイマーがその時点から再開します。

チャンネル非表示 (初期設定:dSoF)



【▼】/【▲】、【機能】、【P1】、【P2】のいずれも操作していない状態が5秒経過すると、表示部からチャンネル情報を非表示にさせる設定です。

- dSoF : 非表示にしない
- dSon : 非表示にする

※電池残量表示だけが表示されます。

※どれか1つキーを押すと、通常画面が表示されます。

バックライト (初期設定:Lcon)



【▼】/【▲】、【機能】、【P1】、【P2】のいずれかを押したときだけ、表示部の照明を自動点灯させる設定です。

- LcoF : 自動点灯しない(常に消灯)
- Lcon : 自動点灯する

※【通話】操作や音量調整のときは、自動点灯しません。

※操作していない状態が5秒経過すると、消灯します。

ビープ音 (初期設定:bPon)



【▼】/【▲】、【機能】、【P1】、【P2】、【通話】のいずれかを押したときのビープ音(操作音など)を鳴らさないようにする設定です。

- bPoF : 鳴らさない
- bPon : 鳴らす

オートロック機能 (初期設定:ALoF)



操作していない状態が30秒経過すると、自動的にロック機能が動作する設定です。

- ALoF : 使用しない
- ALon : 使用する

※設定時間を変更したい場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

モニター機能 (初期設定:MooF)



「ザー」という音を聞きながら音量を調整するときを使用する設定です。

- MooF : 使用しない
- Moon : 使用する

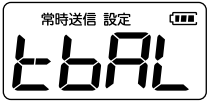
※「Moon」に設定しているあいだだけ、モニター機能が動作し、状態表示ランプが緑色に点灯します。

※電源を入れなおすと、「MooF」に戻ります。

5 設定モード

■ 設定項目について

送信動作機能 (初期設定:tbAL)



電源を入れたあとの送信動作を設定します。

- tbAL : 電源を入れたら、音声信号を含んでいない電波(無変調)が常に送信された状態になり、**[通話]**、または接続したマイクロホンのマイクスイッチを押すことで、音声信号を送信する
※「tbAL」設定時、上図のように、「常時送信」が表示されます。
- tbPt : 電源を入れたら、待ち受け状態になり、**[通話]**、または接続したマイクロホンのマイクスイッチを押すことで、送信を開始する

P1(短押し) (初期設定:S1oF)



無線機の[P1]を短く押したときの動作を設定します。

- S1oF : 設定しない
 - S1on : 設定する
- ※「S1on」設定後に**[機能]**を押すと、「Sq」(機能割り当て)が表示されます。
詳細については、右記をご覧ください。

P2(短押し) (初期設定:S2oF)



無線機の[P2]を短く押したときの動作を設定します。

- S2oF : 設定しない
 - S2on : 設定する
- ※「S2on」設定後に**[機能]**を押すと、「Sq」(機能割り当て)が表示されます。
詳細については、右記をご覧ください。

P1(長押し) (初期設定:L1oF)



無線機の[P1]を長く押したときの動作を設定します。

- L1oF : 設定しない
 - L1on : 設定する
- ※「L1on」設定後に**[機能]**を押すと、「Sq」(機能割り当て)が表示されます。
詳細については、下記をご覧ください。

P2(長押し) (初期設定:L2oF)



無線機の[P2]を長く押したときの動作を設定します。

- L2oF : 設定しない
 - L2on : 設定する
- ※「L2on」設定後に**[機能]**を押すと、「Sq」(機能割り当て)が表示されます。
詳細については、下記をご覧ください。

機能割り当て (初期設定:Sq)



下記設定時に、割り当てできる機能を設定します。

「P1(短押し)」の設定「S1on」

「P2(短押し)」の設定「S2on」

「P1(長押し)」の設定「L1on」

「P2(長押し)」の設定「L2on」

●Sq : スケルチレベルの設定

●Mc : マイク感度の設定

●Mo* : モニター機能の設定

★「P1(長押し)」、または「P2(長押し)」の設定が「L1on」、または「L2on」に設定されているときだけ選択できます。

※「P1(長押し)」、または「P2(長押し)」にモニター機能を設定した場合、「P1(短押し)」、または「P2(短押し)」は強制的にOFFになり、設定を変更できません。

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ ホームページに掲載

別売品一覧については、弊社ホームページ

<https://www.icom.co.jp/> でもご覧いただけます。

■ 別売品一覧表

★1: IPX7の防水性能があります。

★2: IP54の防塵/防水性能があります。

★3: IPX4の防水性能があります。

上記、防塵/防水性能については、「IP表記について」(P.iii)をご覧ください。

バッテリー関係

BP-304A : リチウムイオンバッテリーパック

BP-308 : アルカリ電池ケース
(単4形アルカリ乾電池×3本)

充電する

BC-256 : 2口連結型充電器

BC-228 : ACアダプター(BC-256用の電源)

BC-123S : ACアダプター(BC-256単体用の電源)

腰にかける

MB-127 : ベルトクリップ
※キャリングケースとの併用可能。

肩にかける

MB-57L : ショルダーストラップ
※キャリングケースとの併用可能。

スピーカー関係

EH-11 : イヤーパッド型スピーカー(プラグ: φ2.5mm)
※6-5ページと併せてご覧ください。

アンテナ関係

FA-S29U*¹ : 防水形短縮アンテナ(約5cm)
※6-4ページと併せてご覧ください。

イヤホン関係

EH-13 : 耳かけ型イヤホン(プラグ: φ2.5mm)
※HS-92、HM-123、HM-149のいずれかでお使いになれます。

EH-14 : オープンエア型イヤホン(プラグ: φ2.5mm)
※HM-104、HM-104A、HM-123、HM-149のいずれかでお使いになれます。

EH-15 : イヤホン(プラグ: φ2.5mm)
※EH-15B(黒色)
※HM-104、HM-104A、HM-123、HM-149のいずれかでお使いになれます。

マイクロホン/ヘッドセット関係

HM-104 : 単一指向性タイピン型マイクロホン
※HM-104A(無指向性タイピン型マイクロホン)
※EH-14、EH-15、EH-15Bのいずれか、およびOPC-636、OPC-661、OPC-2277のいずれかでお使いになれます。

HM-123 : 本体取り付け型マイクロホン(イヤホン付属)
※6-4ページと併せてご覧ください。

HM-149 : 防水コネクター付きタイピン型マイクロホン
※コネクター部分だけがIPX7仕様
※EH-14、EH-15、EH-15Bのいずれかでお使いになれます。

HS-88A : ヘッドセット
※OPC-636、OPC-661、OPC-2277のいずれかでお使いになれます。

HS-92 : ヘルメット取り付け型マイクロホン(ワニ口クリップで固定)
※6-5ページと併せてご覧ください。

HS-95 : ネックアーム型ヘッドセット
※VS-2SJ(別売品)と併せてご用意ください。

HS-99 : 耳かけ式イヤホンマイクロホン
※VS-2SJ(別売品)と併せてご用意ください。

OPC-636 : マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(ロック仕様)
※6-5ページと併せてご覧ください。

OPC-661 : 接続ケーブル(マイクスイッチなし)
※6-5ページと併せてご覧ください。

OPC-2277*² : マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル
※HS-88A、HS-92、HM-104、HM-104Aのいずれかでお使いになれます。

VS-2SJ*³ : VOXユニット
※6-5ページと併せてご覧ください。

6 別売品とその使いかた

■ 安全な充電のために

△危険

- ◎充電するときは、必ず指定の充電器をご使用ください。
- ◎指定(BP-304A)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
- ◎「ご使用になる前に」(別紙)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

△警告

本製品やバッテリーパックがぬれたり汚れたりした状態で、充電しないでください。
本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子がサビるなどして、故障の原因になります。

■ バッテリーパックの運用時間と充電時間

名 称 定 格 項 目	BP-304A
電池の種類	リチウムイオン
電池の容量	2200mAh min. /2350mAh typ.
出力電圧	3.6V
寸 法 (幅×高さ×奥行)	54.4×35.0×10.7 【条件】突起物は含まず/【単位】mm
運用時間	約15時間 【条件】同時通話状態で連続使用時
充電時間	約4.0時間:無線機に装着した状態でBC-256を使用時 約3.5時間:BP-304A単体でBC-256を使用時

※バッテリーパックに異常があると思われるときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ バッテリーパックの特性と寿命について

- ◎バッテリーパックは、消耗品です。
充電できる回数は、300回～500回が目安です。
- ◎使用せずに保管しているだけでも、劣化が進行します。
- ◎劣化がはじまると、充電が完了しても運用時間が短くなります。
- ◎充電が完了しても、運用時間が極端に短くなったときは寿命です。
無線機の性能を十分活用するため、長くても5年以内の交換をおすすめします。


■ バッテリーパックの膨らみについて

このような環境や条件で使用をつづけると、バッテリーパックの性質や特性により、内部が劣化し膨張することがあります。

- ◎ひんぱんに充電している
 - ◎満充電直後でも再充電している
 - ◎高温な場所で使用・保管している
 - ◎本書で説明する充電方法と異なる
- バッテリーパックが膨張した場合は、劣化に伴う寿命です。新しいものと交換してください。

■ 正しい充電のために

バッテリーパックを無線機本体に装着した状態で充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。
電源を入れたまま充電すると、正常に充電できないことがあります。

- ◎お買い上げいただいたときや、約2カ月以上使用しなかったときは必ず充電してください。
- ◎バッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。
なお、満充電した直後に再充電しないでください。
- ◎満充電、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。
長期間バッテリーパックを保管する場合は、残量表示が  の状態になるまで使用し、無線機から取りはずした状態で保管してください。
- ◎極端に高温、または低温の環境下や、バッテリーパックと充電器の温度差が大きい場合、充電できないことがあります。
充電器は、次の環境下での充電を推奨します。
BC-256(2口連結型充電器) : 10～40℃
- ◎充電口や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがありますので、乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。

6 別売品とその使いかた

■ 充電のしかた

ご購入後、はじめてご使用になるときは、必ずバッテリーパックを充電してください。

※充電器は、付属していません。

充電器(BC-256)と充電器の電源(BC-228、またはBC-123S)を別途ご購入ください。

※BC-256の電源には、BC-228またはBC-123Sを必ずご使用ください。

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で充電できます。

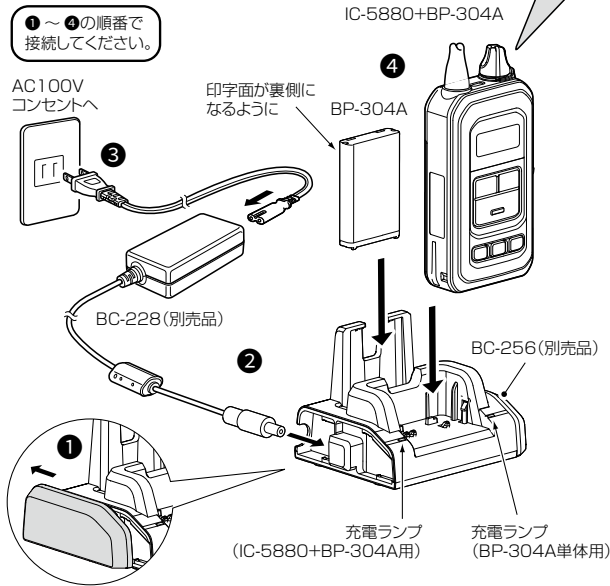
充電ランプ

充電中 : 青色点灯

充電完了 : 消灯

※10℃～40℃環境下での充電を推奨します。

充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。
※電源を入れたまま充電すると、正常に充電できないことがあります。



※BC-256単体で充電する場合
別売品のBC-123S(ACアダプター)も使用できます。

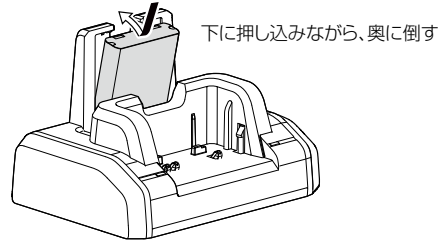
【充電中に充電器のランプが青色点滅になるときは】

無線機の電源を入れた状態で充電しているときは、無線機の電源を切った状態で充電しなおしてください。

※充電状況が変化しない場合は、バッテリーパックの故障、または寿命ですので、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

【バッテリーパック単体で充電するには】

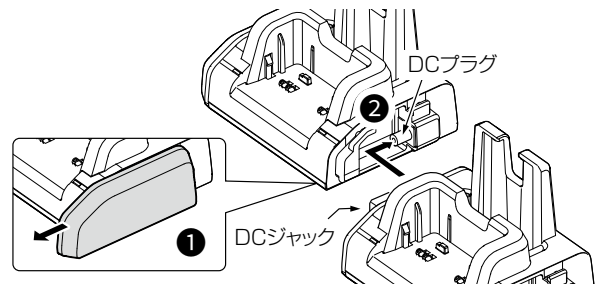
下図のように、バッテリーパックをBC-256に合わせて差し込み、ロックされていることを確認してください。



■ 連結充電について

最大6台まで連結して、同時に充電できます。

- ①充電器右側面のカバーを取りはずします。
- ②右側面にあるDCプラグと、もう1台の充電器(左側面)にあるDCジャックを「カチッ」と音がするまで差し込みます。



△警告

下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、故障の原因になります。

◎BC-256を連結できるのは、6台までです。

※7台以上連結して充電しないでください。

◎BC-256を複数台連結する場合、電源は必ず連結用ACアダプター(BC-228)をご使用ください。

※BC-123Sは、BC-256単体で充電する場合に使用できるACアダプターです。

■ BC-256の定格について(別売品)

定格入力電圧:DC15V(±0.75V)(連結充電時)

DC12V(±0.60V)(単体充電時)

使用温度範囲:10～40℃

重量:約137g

寸法:106.0(W)×71.4(H)×77.8(D)mm

(カバー装着時)

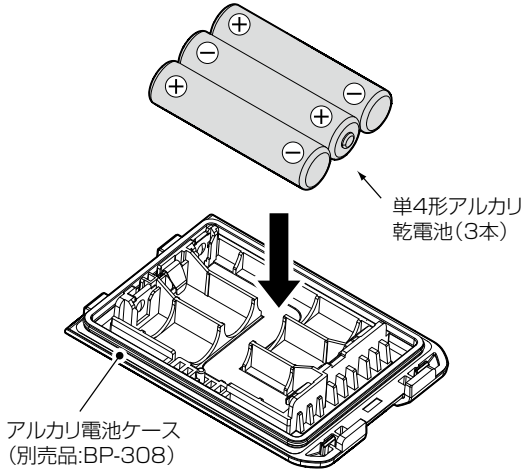
※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

6 別売品とその使いかた

■ BP-308(アルカリ電池ケース)

下図を参考に、単4形アルカリ乾電池(3本)をアルカリ電池ケースに入れます。

※アルカリ電池ケースは、防水構造ではありません。



■ 運用時間(アルカリ電池ケース使用時)

運用時間	約5時間 【条件】同時通話状態で連続使用時
------	--------------------------

※使用条件やアルカリ乾電池の種類(製造元など)により、使用時間が大きく異なることがあります。
また、アルカリ乾電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。

■ アルカリ電池ケースを正しく ご使用いただくために

△危険

アルカリ電池ケース(BP-308)は、単4形アルカリ乾電池専用です。

アルカリ乾電池以外の電池を入れないでください。
破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。

△警告

電池を交換するときは、すべての電池を同時に交換してください。また、種類の異なる電池を混ぜたり、新しい電池と古い電池を混ぜたりして使用しないでください。

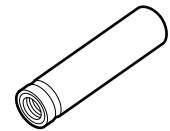
破裂、発熱、液もれ、けがの原因になります。

- ◎アルカリ電池ケースは、防水構造ではありません。
- ◎単4形アルカリ乾電池の⊕(プラス側)と⊖(マイナス側)の極性を間違えないように入れてください。
- ◎アルカリ電池ケースの電圧が本製品の動作範囲以下になると電源が切れます。
- ◎アルカリ電池ケースの電池端子部にゴミやホコリが付着すると正常に使用できないことがありますので、乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。
- ◎アルカリ乾電池の種類により、運用時間が異なることがありますので、ご注意ください。
- ◎アルカリ乾電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。
- ◎アルカリ乾電池に記載されている注意事項も併せてお読みいただき、正しくご使用ください。

■ FA-S29U(防水形短縮アンテナ)

本製品に取り付けることで、IPX7の防水性能があります。

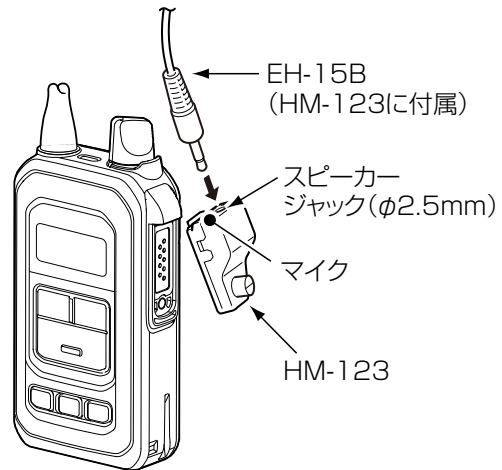
- ◎外形寸法 : $\phi 12.5 \times 50$ mm
- ◎使用周波数 : 415MHz帯



■ HM-123(本体取り付け型マイクロホン)

別売品のEH-13、EH-14のいずれかでお使いになれます。

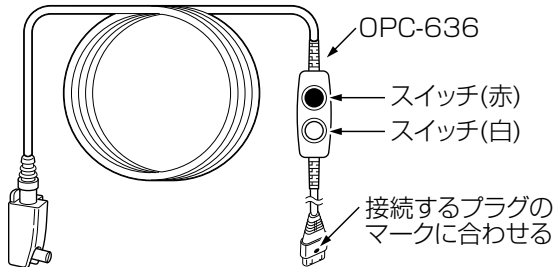
※HM-123には、イヤホン(EH-15B)が付属されています。



6 別売品とその使いかた

■ OPC-636(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)/OPC-661(接続ケーブル)



HS-88A、HS-92、HM-104、HM-104Aのいずれかでお使いになれます。



【OPC-636の場合】

赤色のスイッチは、ノンロック(未固定)式です。



※白色のスイッチが出ている(出)ときに使用できます。

-  : 押ししているあいだけ、呼び出し、または応答できる
-  : 呼び出した局は、はなすと通話が切れる
応答した局は、はなすと呼び出しを受けたときの状態(状態表示ランプが緑色に点灯)に戻る

白色のスイッチは、ロック(固定)式です。

※赤色のスイッチは、白色のスイッチが押し込まれていると無効です。

※白色のスイッチが押し込まれている状態で本製品(子機)の電源を入れたときは、押しなおすまで呼び出し、または応答できません。

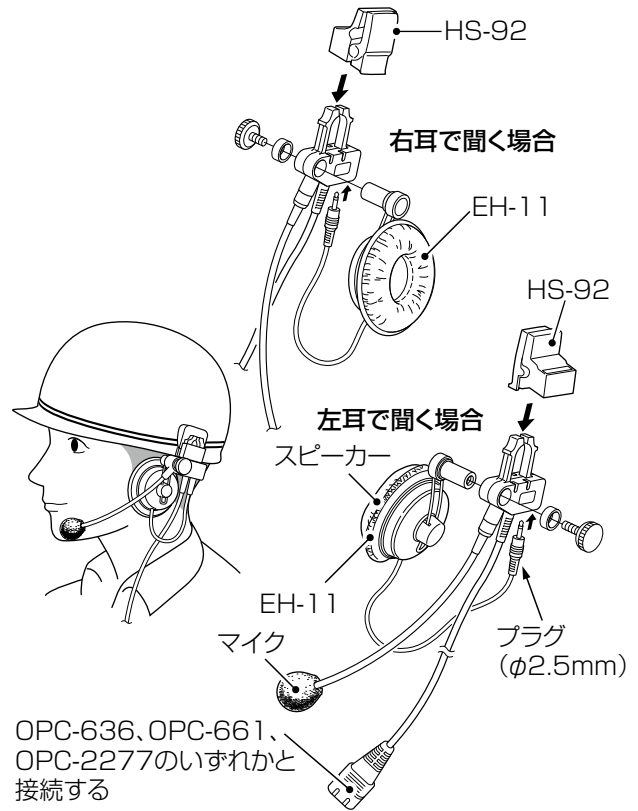
-  : 押し込む(入)と、呼び出し、または応答できる
-  : 呼び出した局は、出ている(出)と通話が切れる
応答した局は、出ている(出)と呼び出しを受けたときの状態(状態表示ランプが緑色に点灯)に戻る

【OPC-661の場合】

マイクスイッチが付いていない接続ケーブルです。

※通話は、無線機本体の【通話】を使用します。

■ HS-92(ヘルメット取り付け型マイクロホン)とEH-11(イヤープッド型スピーカー)の組み立て



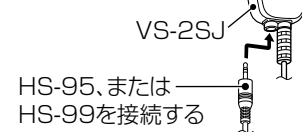
■ VS-2SJ(VOXユニット)

HS-95、HS-99のいずれかと併せてご用意ください。

※【通話】スイッチ以外の部分は、VS-2SJの説明書をご覧ください。

【通話】スイッチ

ノンロック(未固定)式
スライド式



ノンロック(未固定)式

押ししているあいだけ、呼び出し、または応答できます。

※呼び出した局は、はなすと通話が切れます。

応答した局は、はなすと呼び出しを受けたときの状態(状態表示ランプが緑色に点灯)に戻ります。

スライド式

上にスライドさせると、呼び出し、または応答できます。

※呼び出した局は、スライドを戻すと通話が切れます。

応答した局は、スライドを戻すと呼び出しを受けたときの状態(状態表示ランプが緑色に点灯)に戻ります。

7 保守について

■ メモリーチャンネル表示一覧表

チャンネルメモリーモード(初期設定)で使用する場合、本製品(子機)と親機に設定されているメモリーチャンネル表示の対比一覧表です。

※1台の親機(例:M-Ch01)と4台の子機(例:C101、C201、C301、C401)が同時通話できます。

子機(本製品)	親機	子機(本製品)	親機
C101	M-Ch01	C106	M-Ch06
C201			
C301			
C401			
C102	M-Ch02	C107	M-Ch07
C202			
C302			
C402			
C103	M-Ch03	C108	M-Ch08
C203			
C303			
C403			
C104	M-Ch04	C109	M-Ch09
C204			
C304			
C404			
C105	M-Ch05	C110	M-Ch10
C205			
C305			
C405			

※設定内容やメモリーチャンネル表示をお買い上げの販売店で変更して、お渡ししている場合は、上記の表と異なります。
そのときは、設定内容をお買い上げの販売店におたずねください。

7 保守について

■ 日常の保守と点検について

◎ふだんは乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

洗剤や有機溶剤(シンナーやベンジンなど)を絶対に使用しないでください。

また、バッテリーパック(BP-304A)やアルカリ電池ケース(BP-308)を取りはずした状態では、乾いたやわらかい布でふいてください。

◎無線機本体、充電器(BC-256)、バッテリーパック、アルカリ電池ケースの各端子(充電端子や電源端子)にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。

乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。

◎使用される前に、電池の容量が十分残っているか、表示部の残量表示(P.2-2)を確認してください。

また、アルカリ電池ケース、またはバッテリーパックなどがしっかりと装着されているか点検してください。

◎定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。

◎音量が最小に調整されていないか、確認してください。

■ 防塵/防水性能維持の定期点検と保守について

本製品は、IP67を保証(ご購入より1年間)している無線機です。

この防塵/防水性能を維持するためにも、保証期間経過後は定期点検(年1回)の実施をおすすめします。

また、防塵/防水保証の延長なども含んだ保守サービス(有料)を準備しております。

定期点検や保守サービスの詳細については、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

弊社サポートセンターへのお問い合わせ先については、弊社ホームページ <https://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

■ 従来製品との相互使用について

IC-4880と互換性があります。

■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は、故障ではありません。

修理を依頼される前にもう一度お調べください。

〈現象〉充電中に充電器のランプが青色点滅になる

〈原因〉無線機の電源を入れた状態で充電している

処置:無線機の電源を切った状態で充電する
※充電状況が変化しない場合は、バッテリーパックの故障、または寿命ですので、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

〈現象〉充電器のランプが消灯(充電完了)しない

〈原因〉無線機の電源を入れた状態で充電している

処置:無線機の電源を切った状態で充電する

〈現象〉電源が入らない

〈原因1〉電池をアルカリ電池ケース(BP-308)に入れるとき、極性を間違えている

処置:極性を確認して、アルカリ乾電池を入れなおす

〈原因2〉バッテリーパック(BP-304A)、またはアルカリ電池ケースの接触不良

処置:バッテリーパックの充電端子、またはアルカリ電池ケースの電池端子を清掃する

〈原因3〉バッテリーパック、またはアルカリ乾電池の消耗

処置:バッテリーパックの場合は充電し、アルカリ電池ケースの場合は新しいアルカリ乾電池と交換する

〈原因4〉バッテリーパックの場合、過放電保護回路が動作している

処置:無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着してから電源を入れる

〈現象〉表示部の表示が変化しない

〈原因1〉ロック機能が動作している

処置:ロック機能を解除する(P.4-1)

〈原因2〉状態表示ランプが赤色に点灯している

処置:[通話]スイッチ(マイクスイッチ)の状態を確認する

〈現象〉接続ケーブルのイヤホンから音が聞こえない

〈原因〉音量が最小に調整されている

処置:ツマミの位置を確認する(P.3-1)

(次ページにつづく)

■ 故障かな？と思ったら

〈現象〉通話できない(応答がない)

〈原因1〉親機の電波が届かない場所にいる

処置:場所を移動してから通話してみる

〈原因2〉相手局が不在、または親機の電源を切っている

処置:相手局、または親機の状態を確認する

〈原因3〉メモリーチャンネルが合っていない

処置:本製品と親機のメモリーチャンネルを確認する

■ アフターサービスについて

「■ 故障かな？と思ったら」(P.7-2)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先：アイコム株式会社
サポートセンター

0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00~17:00)

電子メール: support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ: <https://www.icom.co.jp/>

How the World Communicates

～コミュニケーションで世界をつなぐ～



- 本 社 東京都品川区南品川 2-7-18 TEL 03-5715-2351
- 関 西 支 店 大阪市西区千代崎 1-24-11 TEL 06-6583-7700
- 札幌営業所 名古屋営業所
- 仙台営業所 九州営業所

<https://www.jenix.co.jp/> 営業所住所はこちら▶



アイコム株式会社

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32